

理科だより

Sence of Wonder (センス オブ ワンダー)

No. 6 2022. 7. 20

高知市立高須小学校
理科だより編集部

「カベチョロ」そうさくたいしゅつどうちゅう 搜索隊出動中！

7月に入り休み時間になると学級園やメダカ池の近くで何かを探している子どもたちが目立ちます。ブロックをひっくり返したり、草の間をじっと見つめたり・・・

何人かの子どもに聞いてみると、「ダンゴムシ」「イトトンボ」「バッタ」といろいろな生き物の名前が聞かれました。2年生の教室に行くとたくさんの飼育ケースが置かれていて観察をしていることがわかります。実際に自分で探してみることでその生き物のくらしぶりが見えてきます。見つけたところに近い環境を飼育ケースの中に作って観察している人もいますね。



ダンゴムシの飼育ケースの中のようす

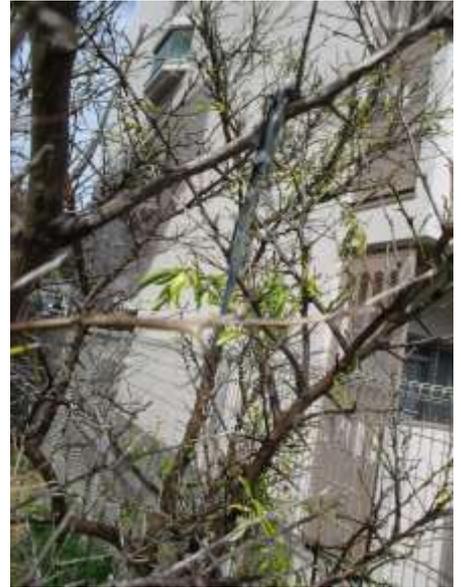
さて、そんな中でもひととき五感を研ぎ澄ませ、探している人たちがいました。彼らが探しているのは「ニホントカゲ」と「カナヘビ」でした。高知では「トカゲ」「カナヘビ」と呼ばれているのかな。九州のある地域ではカナヘビのことを「カベチョロ」と呼ぶそうです。確かに、壁際をチョロチョロとしている姿が浮かびます。それを友人から初めて聞いたとき「うまいこと言うなあ〜」と感心し、それ以来何となく私も使うようになりました。この日、学級園で話した子どもたちに「カベチョロかあ〜。ほら、あそこにいるんじゃない？」という「どこ？どこ？」・・・数メートル離れた流水実験場のセメントの壁をまさしく移動する「カベチョロ」発見。その後、見失っても近くの障害物を動かしたり、かすかな音を聞き逃すまいと聴き耳を立てたりする搜索隊の姿を見ながらその場を離れました。

カベチョロ搜索隊の皆さん、あなたたちは「トカゲを捕まえる」という目的（めあて）に向かって情報を集め、（どんなところにいるか）（天気はどうか）（現れる確率の高い場所は）行動し、うまくいかなかったとしても粘り強く五感を使って繰り返し挑戦し、そして、捕まえることができると、次は「上手く飼育する」という新しい目的に向かって進んでいますね。この姿こそが「学ぶ」ことです。実はどの勉強にも使える素晴らしい方法を実行しているんですよ。夏休みの自由研究にもぜひいかして欲しいです。

大切な生き物の命をあずかっているということを忘れずに、観察が終わればまた、元の場所にはなしてあげるのもいいかもしれませんね。

トカゲを探しているのは搜索隊だけではない・・・

北庭のゆずの木の写真です。わかりますか？よ〜く見ると中ほどにニホントカゲの子どもがいます。これは、「モズのはやにえ」とよばれるものです。モズという鳥がトカゲやカエルなどの小動物を木の枝などに刺したものです。どうしてこのような行動をとるのかよくわかっていないそうです。(非常食として、好奇心から、などの説があります。) かわいそうにも思いますが、これも自然の一部です。



高須小学校の中にはたくさんの小さな自然があります。少しずつ、興味をもってくれるとうれしく思います。



前回のクイズの答え

正解は ギンヤンマ でした。

たくさんの方が正解を伝えに来てくれました。多かった答えは「ギンヤンマ」「シオカラトンボ」の2つでした。どちらもオスの体に水色の部分があります。体長から考えて7センチメートルの大型ということでギンヤンマとなります。

うれしかったのは、「オオシオカラトンボですか？」と答えてくれた人がいたことです。シオカラトンボと考えたけれど、それでは大きさがちがうと思って調べてくれたそうです。始めに考えた答えをもう一度考え直してくれたことがとてもうれしかったです。

今年もプールの上をギンヤンマが飛んでいました。来年もメダカ池でギンヤンマが羽化してくれるといいですね。

◎卒業生も頑張っています

7月14日、青柳中学校の研究授業に参加してきました。1年生の理科の授業を参観しました。ラベルの無くなってしまった食塩、グラニュー糖、片栗粉の3種の白い物質を科学的に特定するための実験方法を考えるという内容でした。小学校での体験や、自分の生活体験、これまでの学習内容を理由に実験方法を仲間と相談、発表する姿を見て、中学生となり成長している姿を見せていただきました。